

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

On your mark ～next100～

多様化する社会の諸問題と主体的に向かい合い、さまざまな課題を解決できる人材を育てます。

1. 体育・スポーツ分野のさらなる特化（学内連携のもと体育・スポーツを通じて社会に貢献できる人材を育成します。）
2. 多様な進学実績（グローバルな社会で活躍する人材の育成と学力養成の環境を整え、有名私大をはじめとした多様な進学先をめざします。）
3. ICT化の推進（次世代教育に対応するために学内のICT化環境及び教育を強化します。）

2 中期的目標

1 生徒個々に応じた学力の向上

(1) 授業力の向上：コースの特色に応じた授業が展開できるよう工夫していく。

- ア 「少人数授業」を活かし、「わかる授業」を推進していく。また、授業アンケート等を活用し、「授業力の向上」を図る。
- イ ICTを活用した授業を積極的に進めていく。令和4年度より授業支援アプリを導入。研究・研修を行い、ICT化を進めていく。
- ウ 成績不振者に対する指導を充実させ、基礎学力の定着を図り、家庭学習の習慣を確立させる。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすいですか。」(令和3年：80%)を令和6年には85%以上にする。☆令和5年：91% 達成

(2) 授業にとどまらず様々な場面での学習環境を整備する。

- ア 漢字検定・英語検定・数学検定の受検対策を行い、目標達成に向けて意欲的に取り組ませる。
- イ 図書室や学級文庫の利用率を上げ、幅広い知識の習得をめざす。

*** 検定の合格率を向上させ、漢字検定・英語検定については卒業までに全員が3級以上取得をめざす。

(3) 生徒の自主的な学習態度を養う。

- ア 「浪商塾（放課後学習サポート）」をより充実したものにし、自主的な学習につなげていく。
- イ 主体的・協働的な学びを通して発表の機会を増やすことで、「自ら考え、自ら行動する」ことができる生徒を育てる。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「毎日、家庭学習をしていますか。」(令和3年：58%)を令和6年には70%以上にする。☆令和5年：68%

2 生きる力の育成

(1) 規律ある学校生活を送り、生徒会活動などを通じて自主自立の精神を育てる。

- ア 「浪中ルール」を徹底し、生徒の規範意識を高めていくとともに、教員の組織的・統一的な指導を行う。
- イ 挨拶・服装等の指導強化に取り組む。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。」(令和3年88%)を令和6年には90%以上にする。☆令和5年：94% 達成

(2) 様々な体験活動やボランティア活動を通じて豊かな感性を養う。

- ア 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、浪商高校でリーダーとなる生徒を育てていく。
- イ 生徒が自ら企画・運営できる学校行事を設定し、学校が楽しいと実感できるものにする。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事（文化祭・体育祭など）に楽しく、積極的に参加していますか。」(令和3年95%)を令和6年には100%にする。☆令和5年：95%

(3) 新学習指導要領への対応（令和3年度全面実施）

- ア 各教科においては、指導内容や指導方法、評価の見直しを図りPDCAサイクルによる授業改善に取り組む。
- イ 未来を生きていく力を育むため、カリキュラムマネジメントを確立し、効果的な教育活動を行う。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「先生は教え方に様々な工夫をしていますか。」(令和3年92%)を令和6年には95%以上にする。☆令和5年：95% 達成

3 中高一貫教育の推進と魅力ある学校づくり

(1) 6年後の進路を見すえ、計画的継続的教育活動を進め、学習面は言うまでもなく部活動でも生徒の個性を伸ばしすぐれた才能の発見に努め、文武両道教育の一層の充実をめざす。

- ア 生徒・保護者向けの説明会をタイミングよく行い、納得のいくコース決定を行っていく。
- イ スクラップアンドビルドの実践。魅力ある浪商中学校実現ために体制を再構築していく。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「学校に来るのが楽しいですか。」(令和3年89%)を令和6年には95%以上にする。☆令和5年：86%

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年11月実施分〕							学校評価委員会からの意見
回収率（在籍数 1年40名 2年31名 3年37名 全学年108名）							【学校関係者評価及び学校診断アンケートの結果報告】 「令和5年度の取組内容及び自己評価」、生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。 1) 学校の現状 ・中学も高校もほぼ定員を確保できている。 ・併願の戻り率が年々下がっている。 ・ICT教育がどんどん進む中、先生方はいろいろなことに対応していかなければならない。ますます大変になっていく。 ・次年度プロジェクターを最新のものに、黒板をホワイトボードにリニューアル予定。 ・進路実現のための取り組みを充実させた（進学ガイダンス、進学講習、3年生専用の自習室確保、提携校の充実等） ・今年も全国大会に多数出場した。 ・生徒会の活動がより活発になっている。 ・仁川大学への語学研修を実施（希望制）。 2) 質問 ・高校無償化の影響はありそうか。→現時点では大幅に受験生が増えたわけではないが、完全無償化となると専願生増につながるかもしれない。 ・部活動の加入率はどれくらいか。→中高とも8割前後の加入率である。 ・部活動の在り方を考えていかなければならない。 ・コロナの影響はどうか。→特に影響はない。行事もすべてコロナ前の状態になった。 ・大学との情報共有はどのようになっているのか。→定例の連携会議で情報共有ができるようになってきた。今後はもっとスムーズにいろいろなことが進んでいくと思う。 3) 意見 ・保護者の肯定率が少し下がったのは残念であるが、生徒の肯定率が年々上がっているのは素晴らしい。それぞれの結果を分析し、次年度に活かしていかなければならない。 ・少子化進んでいく中、安定した定員を確保するために、コース改編も視野に入れ、魅力のある学校にしていかなければならない。 ・登下校の通学マナーについて注意喚起が必要。生徒指導部でも頻繁に指導を行っているが、継続して指導していく。 ・大阪体育大学への内部進学希望者を増やすために、出前授業等ができれば。
生徒	38名	29名	32名	99名	92%	93%	
保護者	35名	26名	29名	90名	83%	90%	
・生徒はGoogle フォーム、保護者はさくら連絡網で実施。 ・今年度は保護者の回収率が低くなった。							
【生徒アンケート】 アンケート20項目のうち16項目が80%を超える肯定率であった（昨年は19項目のうち13項目）。毎年低い肯定率の家庭学習についての項目が大幅に高くなった（36%→68%）。							
*肯定率が高い項目（R5・R4・R3） 2. 授業はわかりやすいですか。（91・85・80%） 3. 先生は教え方に様々な工夫をしていますか。（95・94・92%） 6. 学校生活についての先生の指導に納得できていますか。（90・85・85%） 8. 本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。（94・96・88%） 9. 清掃活動をきちんと行っていますか。（97・99・96%） 10. 学校行事（文化祭・体育祭など）に楽しく、積極的に参加していますか。（95・99・95%） 15. 先生は、生徒の頑張りをよく評価してくれていますか。（90・95・88%） 16. 学習でiPadを有効に活用していますか。（95・なし・なし%）※今年度から							
*肯定率が低い項目（R5・R4・R3） 17. 図書室を利用していますか。（25・27・39%）							
【保護者アンケート】 昨年は20項目のうち16項目が80%を超える肯定率であったが、今年度は20項目のうち11項目となった。							
*肯定率が高い項目（R5・R4・R3） 9. 学校は保護者の授業参観や懇談会の機会を適切に設けている。（97・94・96%） 10. 先生は保護者からの相談に適切に対応している。（92・93・92%） 20. 学校からの連絡は、さくら連絡網で適切に行われている。（99・87・81%）							
*肯定率が低い項目（R5・R4・R3） 7. お子さんは入学して、また進級して学習活動に取り組む時間が増えた。（49・45・54%）							
開催日： 令和6年08月04日（土） 学校関係者評価 令和6年10月22日（火） 学校関係者評価							
出席者： 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤哲士 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 北川浩司 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田倫史 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本雅彦 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室長 植村大樹 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 篠山久美子 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 松田博志 大阪体育大学 スポーツ科学部スポーツ科学科長 兼体育学部スポーツ教育学科長 曾根純也 大阪体育大学 スポーツ科学部スポーツ科学科長 兼体育学部健康・スポーツマネジメント学科長 伊原久美子 同窓会副会長 古川義高 堀博充税理士事務所 堀博充							

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																
1 生徒個々に応じた学力の向上	(1) 授業力の向上																			
	ア 「少人数授業」を活かした、「わかる授業」の推進	ア・習熟度別授業の充実を図る。 ・「授業アンケート」をもとに教員面談を実施する。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすいですか。」 (令和4年度 85%) ⇒90%に	ア・91%/+6% (○) ICT機器の活用が影響しているのか、かなり高い肯定率となった。																
	イ ICTの活用	イ・昨年度採用した、「Metamoji Classroom」「Classi」「Teams」を積極的に活用する。	イ・生徒向け学校教育自己診断における「先生は教え方に様々な工夫をしていますか。」 (令和4年度 94%) ⇒95%に	イ・95%/+1% (○) 「Metamoji Classroom」を導入したことで、iPadやプロジェクターの使用頻度が高くなった。今後は学習効果についても検証していきたい。																
	(2) 学習意欲の向上と基礎学力の向上																			
	ア 家庭学習習慣の確立	ア・朝学習を含めた学習サイクルを構築し、家庭学習習慣の定着を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「毎日、家庭学習をしていますか。(塾以外)」 (令和4年度 36%) ⇒50%に	ア・68%/+32% (○) 学習コンテンツが定着してきた。3年生においては、実力テストの成績もアップした。																
	イ 「フォローアップ講習(浪商塾)」と「ステップアップ講習」の充実	イ・フォローアップ講習については、呼び出し基準を定期考査の点数だけではなく、日常の取り組み状況も数値化し基本的な学習習慣の定着をめざす。 ・ステップアップ講習については、個人の学力に応じた対応ができるように工夫する。	イ・普段の授業での理解度を上げ、指名される人数を減らしていく。	イ・学習習慣がまだまだ定着できていない生徒が多数いるので、丁寧に対応していく。(△)																
	ウ 各種検定試験に向けて積極的な取組み	ウ・検定試験合格率アップのため、授業や放課後のステップアップ講座で対策を行う。	ウ・漢字検定または英語検定4級以上の取得者を増やす。 ・日々の学習が検定試験の結果につながるように、授業内容や課題を工夫する。	ウ・取得者数は少し増えたが、受検者数が減ってきている。生徒のモチベーションアップにつながる取り組みをしていきたい。(○)																
			令和4年度の取得者(4級以上) 漢字検定 18名 英語検定 11名	令和5年度の取得者(4級以上) 漢字検定 22名																
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>漢検</th> <th>準2級</th> <th>3級</th> <th>4級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td></td> <td>3</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	漢検	準2級	3級	4級	1年生			4	2年生			6	3年生		3	9
	漢検	準2級	3級	4級																
1年生			4																	
2年生			6																	
3年生		3	9																	
			英語検定 14名																	
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>英検</th> <th>準2級</th> <th>3級</th> <th>4級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td></td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td></td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	英検	準2級	3級	4級	1年生			1	2年生		1	6	3年生		4	2	
英検	準2級	3級	4級																	
1年生			1																	
2年生		1	6																	
3年生		4	2																	
(3) 読書活動の推進	図書室の貸出冊数と授業利用時間をアップさせる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>621冊</td> <td>652冊</td> </tr> <tr> <td>授業利用</td> <td>55時間</td> <td>49時間</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度	令和4年度	貸出冊数	621冊	652冊	授業利用	55時間	49時間	<ul style="list-style-type: none"> ・年々図書室の利用が減っているので、授業で利用する時間を増やし、個人利用増につなげる。 ・図書室の貸出冊数と授業利用時間 <p>令和5年度の目標数値</p> 貸出冊数 ⇒660冊に 授業利用時間 ⇒55時間に	<p>令和5年度の数値</p> 貸出冊数 743冊/+91冊 (○) 授業利用時間 36時間/-13時間 (×) 貸出冊数は大幅に増えた。本を読む時間を設けたことがきっかけになったか。 授業利用は減っているが、司書が各ホームルームに行くという取り組みを行っているので、いろいろなかたちで、本に触れさせていきたい。							
	令和3年度	令和4年度																		
貸出冊数	621冊	652冊																		
授業利用	55時間	49時間																		

<p>2 生きる力の育成</p>	<p>(1) 自主自立の精神の育成</p> <p>ア 生徒の規範意識の向上と、教員の組織的・統一的な指導</p> <p>イ 部活動等の課外活動を推奨</p> <p>(2) 豊かな感性の育成</p> <p>ア 生徒が活躍できる場を多く設け、リーダーになれる生徒を育成</p> <p>イ 体験型学習の充実</p>	<p>ア・「浪中ルール」を徹底し、生徒・保護者・教員が共有することで安心安全な学校を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換を密に行い、問題事象を早期発見・対応していく。 <p>イ・学習と部活動を積極的に取り組ませるため、何事にも挑戦できる環境を作っていく。</p> <p>ア・生徒会活動を充実させる。委員会活動を計画的に行い、生徒の主体性を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の企画・運営を積極的に行わせる。 <p>イ・体験型学習の事前・事後学習をより深いものにする。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。」 (令和4年度 96%) ⇒100%に</p> <p>イ・教室や集会などでの声かけや、挨拶運動などを行う。</p> <p>ア・月に1回、生徒会委員会を開く。</p> <p>イ・掲示やプレゼンテーション等の成果発表を行う。</p>	<p>ア・94%/-2% (△) 少し下がったが、道徳やHRでの取り組みが成果として出ている。</p> <p>イ・集会は実施できたが、挨拶運動が実施できなかった。自ら挨拶ができる、気持ちのいい学校にしていきたい。(△)</p> <p>ア・定期的に開くことができた。少しずつ自主的な活動も増えてきている。(○)</p> <p>イ・クラス単位でのプレゼンテーションは実施できたが、全体にはできなかったのでできるようにしたい。(△)</p>
<p>3 中高一貫教育の推進と魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 中高一貫教育の充実と発展</p> <p>ア 生徒・保護者向け内部進学説明会の充実</p> <p>イ 安定した入学生の獲得</p> <p>ウ 生徒の姿が見える募集活動</p>	<p>ア・浪商高等学校の魅力タイミングよく伝え、生徒に合ったコース選択につなげていく。</p> <p>イ・1クラス募集2年目となり、今年度からスタートするグローバルプログラムとスポーツプログラムを魅力あるものにする(2年次から)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数での環境を最大限に活かした、教育活動を行う。 ・中高大の連携をより強いものにし、また教育資源を活用し、中学校の特色をしっかりと出していく。 <p>ウ・各種行事に加え、募集行事においても生徒主体による企画・運営を取り入れ、生き生きとした姿を見てもらえる機会を設ける。</p>	<p>ア・内部進学者 90%をめざす。 (令和4年度 86%)</p> <p>イ・学校・学年の特色をはっきりさせるために、行事を見直し、スクラップアンドビルドを実践していく。</p>	<p>ア・内部進学者 68%/-22% (×) 生徒・保護者へタイミングよく丁寧な説明を行っていく。</p> <p>イ・一部行事を見直し、現状に合った行事を入れることができた (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・